

農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 令和7年3月19日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

◆ 小麦

- ・ 3カ月予報（2月25日気象庁発表）によると、向こう3カ月（3～5月）の気温は高い見込みです。
- ・ 排水対策は今後の適期作業にも大きく影響します。圃場内の明渠や排水溝を補修し、速やかに排水できるよう努めましょう。
- ・ 倒伏により、赤かび病の発生が増加する恐れがあるため、倒伏を助長する過剰な追肥は避けましょう。
- ・ 除草剤の散布は適期を逃さず早めに行いましょう。
- ・ 麦踏みは、圃場が乾いていることを確認して茎立ち前までに行いましょう。

小麦

1 生育状況

現在、降雪が残っている圃場もみられます。排水対策が十分でない圃場では、雪解け水が溜ることで生育の遅れが懸念されますので、速やかに排水します。

2 排水対策

小麦は生育後半まで湿害を被る作物です。できるだけ早く圃場を乾かし、今後の作業を容易にするためにも、排水溝の崩れやゴミの詰まりを点検し、速やかに排水できるよう補修します。

例年、隣接する水田からの流入水により、生育の悪い圃場が散見されますので、畦畔を補修するとともに、茎立ち前を目安に、必要に応じて圃場内排水溝を設置します。



写真1 水口付近の滞水が目立つ圃場

3 麦踏み

生育が旺盛な場合は、鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行います。生育を揃え、耐倒伏性を高める効果もあります。麦踏みは、消雪後から**茎立ち前**にかけて、圃場が乾いているときに実施します。ただし、麦の生育が劣る場合や土壌水分が高い場合は避けます。

茎立ち期：節間伸長により茎が起立し始め、主稈長が2cmになった時期。平年では、概ね4月中旬に茎立ち期に達します。



写真2 茎立ち期の判断指標



写真3 茎立ち期の草姿

4 融雪期追肥

品種特性や生育状況で追肥量が異なり、過剰な追肥は倒伏を助長します。**倒伏により、赤かび病の発生が増加するおそれがあります**ので、注意が必要です。

融雪期追肥は、生育量を確認し、下記の表を参考に行います。

縞萎縮病が見られる場合や白鳥による食害を受けた場合にも、融雪期追肥が有効です。

表1 生育量に基づく融雪期追肥の目安(ナンプコムギ・ゆきちから・ナンプキラリ、追肥量は窒素成分)

品種名	診断内容	融雪期追肥の対応
ナンプコムギ	越冬後株数 120 株/㎡ (茎数 1,000 本/㎡以上)	追肥しない
	越冬後株数 75～120 株/㎡ (茎数 400～1,000 本/㎡程度)	2kg/10a 追肥
ゆきちから ※	茎数 1,900 本/㎡以上	追肥しない
	茎数 1,400～1,900 本/㎡	2kg/10a 追肥
	茎数 1,400 本/㎡未満	4kg/10a 追肥
	水田転換畑 1～2 年目で堆肥を 施用しない場合	4～6kg/10a 追肥
ナンプキラリ	越冬後茎数 900～1,200 本/㎡	4kg/10a 追肥

※県中南部の「ゆきちから」において、窒素成分で 4kg/10a を追肥する場合、融雪期追肥とするよりも茎立期追肥とした方が収量が増加します。なお、茎立期追肥とした場合の玄麦タンパク質含有率、容積重、検査等級、倒伏程度は融雪期追肥とした場合と同等です。

表2 融雪期追肥の目安(銀河のちから、追肥量は窒素成分)

収量水準 (kg/10a)		越冬後茎数 (本/㎡)		
坪刈	全刈 (目安)	300 以下	300 ～ 600	600 以上
400	280～320	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
500	350～400	4kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
600	420～480	6kg/10a 追肥	6kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥

注) 全刈収量は坪刈収量の 7～8 割として推定



写真4 銀河のちから 茎数 560 本/㎡



写真5 ゆきちから 茎数 1,100 本/㎡

5 除草

圃場をよく観察し、雑草が生えそろって小さいうちに茎葉処理除草剤を散布します。

特に連作圃場では、雑草害が大きくなります。雑草の種類、発生状況をあらかじめ把握しておく、効率良く防除できます。

6 ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因です。名前のとおり株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンプコムギでは被害が大きくなります。萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減します。



写真6 コムギ縞萎縮病の被害（不鮮明なモザイク症状）

7 肥料コスト低減に向けて

令和4年に急騰した肥料価格はその後低下傾向にありますが、依然として高止まりが続いています。このため、土壌診断に基づく適正施肥や、たい肥などの有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等により、コスト低減に努めましょう。

岩手県では、肥料コスト低減に向け、下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/001/049/686/hiryokoutoumanyuaru0406.pdf

山火事警戒宣言発令中！

〔 2月27日
～5月31日 〕

山火事の多くが、ちょっとした火の取扱いの不注意から発生しています。

県民の皆様におかれましては、山火事の危険性を十分認識していただき、特に、強風時や乾燥時には火入れや野焼きなどの火の使用は絶対行わない、タバコの投げ捨ては絶対行わないなど、恐ろしい山火事の防止に御協力をお願いします。

次号は4月17日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。